



倉敷市の事業に協力

8月19日、倉敷市が主催するG7倉敷宣言推進事業が開催され、倉敷アイビースクエア（以下、アイビー）もその事業に協力しました。

2023年4月にG7広島サミットの関連閣僚会合として「G7倉敷労働雇用大臣会合」がアイビーで開かれ、人への投資に積極的に取り組むとした「G7倉敷労働雇用大臣宣言」が採択されました。この宣言に基づき、倉敷市では、人への投資・雇用対策・人の定着の3本柱で、労働と雇用を地域で守り、まちの発展につなげてきた歴史を受け継ぎ、地域の持続的な発展を見据え、人を大切にする労働雇用の取り組みを進めています。

この取り組みを推進する事業として「はたらくってなんだ？親子で倉敷探検バスツアー」が開催されました。「はたらく」ことへの理解を深めることで、将来の職業選択に資するとともに地元への定着定住につなげるため、小学生（4～6年生）と

その保護者を対象に体験型バスツアーを企画したものです。

今年は10月25、26日にアイビーを主会場として「日本遺産フェスティバル」が開催されます。その機運醸成を図るため「一輪の綿花から始まる倉敷物語」のストーリーに焦点を当て、倉敷で栄えた繊維産業において培われた「人を大切に作る」労働雇用の歴史と働き方について学ぶ機会を提供する催しです。

定員20組40人のところ、多くの応募があり23組46人の親子が参加されました。はじめに倉敷市日本遺産推進室から「一輪の綿花から始まる倉敷物語」についてとハローワークからの「『はたらく』ってどんなこと」についての講話を聴きます。倉敷市の講義ではクラボウを代表とした繊維産業が地域の発展に大きく関わっていくことが話されました。また、ハローワークでは大原孫三郎が工場で働く人々と倉敷で暮らす人々のことを考えたさまざまな取り組みをしていったことを学びました。

その後アイビーへ移動し、アイビーおよび美観地区から倉紡記念館への見学組とその逆コースの2班に分かれて行動しました。倉紡記念館ではクラボウの歴史と大原孫三郎、総一郎の業績を中心にお話しをしました。

ツアー後のアンケートでは、労働雇用の歴史について理解できた、働くことについて考えるきっかけとなったという回答が多く、また、身近なところなのに知らないすてきな倉敷の歴史を学ぶことができた、大人も労働を考えるきっかけとなったというものもありました。倉紡記念館の見学時間がもう少し欲しかったという意見もあり概ね好評を得られたようでした。

今後クラボウやアイビーのことを積極的に発信していきたいと考えています。

（総務部 高橋 亮輔 記）



〔写真提供：倉敷市〕

▲クラボウのタオルハンカチをお土産として渡しました



▲倉紡記念館内でクラボウの歴史を熱心に学んでいます